

～「ここすき」学びの記録～ 笑顔が咲くところに。

* 1歳のPさんの行動を見ていると、「言葉のコミュニケーション」の前に、モノのやりとりを通した「心のコミュニケーション」があることがよくわかります。



1) 近づいてきたPさんの頭に、先生がリングをのせてあげました。



2) Pさんはそのリングをとって、先生の頭にのせようとしています。Pさんがのせやすいように、先生は頭を下げます。



3) うまくのせることができ、満面の笑顔。



4) 先生がお辞儀をすると、リングが頭から落ちて、二人で大笑いしました。

Pさんは、先生が頭にのせてくれた「リング」を今度は、自分から先生にのせてあげました。そして、満面の笑みを浮かべました。

この場面には「言葉のコミュニケーション」はありませんが、確かなコミュニケーションが行われています。モノのやりとりを通した「笑顔や気持ちのコミュニケーション」です。

先生は「リング」をのせることを通して「大好き」という気持ちをのせました。すると、Pさんも「大好き」という気持ちを先生の頭にのせて、二人で笑い合ったのです。

この「笑顔や気持ちのコミュニケーション」が咲くところに、やがて「言葉のコミュニケーション」が咲くのでしょう。「言葉」とは、この「リング」のように自分から相手へ向けてのプレゼントのようなものです。そこには「あなたと会えて、うれしい」という気持ちが込められています。

わたしたち大人の言葉のコミュニケーションも、そのベースに「あなたと会えて、うれしい」という気持ちのコミュニケーションがあるときに、お互いを笑顔にすることができるでしょう。

Pさんと先生のエピソードはそんな人間のコミュニケーションの原点を教えてくださいました。